

浜松市教員育成指標(教頭、主幹教諭、教諭、幼稚園教諭、養護教諭、栄養教諭等)

浜松市が目指す教職員の姿		愛情と情熱を持ち続ける教職員			専門性と指導力を磨き続ける教職員	
キャリア段階(経験年数(目安))	0段階	1段階	2段階	3段階	4段階	
	養成期(大学)	基礎期(1~3年)	向上期(4~10年)	充実・発展期(11~20年)	深化・貢献期(21年~)	
	社会人になる自覚を持つとともに、求められる資質の基盤を形成しようと努める。	教育活動に必要な基礎的な知識及び指導技術を習得し、組織の一員として行動する実践的指導力を付ける。	学習指導や生徒指導の専門的な知識及び技能を習得し、自立した教員として学校運営の一翼を担う力を付ける。	学校運営・経営等に関する知識及び技能を習得し、自身の得意分野の伸長を図るとともに、リーダーとして学校運営のための調整力を付ける。	学校運営上重要な役割を担い、他の職員への指導・助言など指導的役割や、学校や地域の教育力向上に貢献できる力を付ける。	
教育センターにおける主な研修		●先生のため講座 ●赴任前講座	●初任者研修 ●2年目研修 ●3年目研修	●6年目研修 ●中堅教諭等資質向上研修	●キャリアデザイン研修	
<b>A 教育的素養</b> ① 豊かな人間性と社会性 ② 教育への情熱・愛情 ③ たゆまぬ自己改革 ④ コンプライアンス		・ 子供や同僚、保護者、地域住民と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身に付けている。【コミュニケーション】 ・ 一人一人の多様性を認め尊重する人権意識を持っている。【多様性の尊重】 ・ 教育に対する意欲や情熱、子供への深い教育的愛情を持っている。【情熱・愛情】 ・ 常に変化を受け止め、探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に学び続け、新しい知識・技能の習得に努めている。【自己研鑽、高度な知識・技能、実践的指導力】 ・ 「ワーク・ライフ・バランス」を良好に保ち、心身ともに健康的で職務に専念できるよう自己管理に努めている。【自己管理】 ・ 教育公務員としての使命感や責任感を自覚し、高い倫理観を持っている。【法令遵守、使命感、責任感、倫理観】				
求められる資質能力 A・Fを基盤に Eを手段として Dを視点に	<b>B 授業を創る力</b> ① 授業構想 ② 指導技能 ③ 省察	B0 ・ 子供の発達を踏まえた学習を支える指導について基本的な考え方を理解する。 ・ 授業の目標や内容、学習評価の考え方について理解する。 ・ 学習指導の方法(基礎的な学習指導理論、授業設計、指導技術等)について理解する。 ・ カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について理解する。	B1 ① 学習指導要領を基に、各教科等の特質を理解し、本時の目標・指導・評価が一体となった学習計画を立てるとともに、先輩教員の助言を得ながら単元計画や評価計画を立てる。 ② 「主体的・対話的で深い学び」を実現する中で、子供の発言や机間指導等により、理解度を確かめながら授業を実践するとともに、評価規準により子供の学びを評価する。 ③ 日々の授業実践を振り返り、自身の課題を把握・分析し、授業改善を図る。 ①②③ カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。	B2 ① 子供の実態を踏まえ、付けたい力を明確にするとともに、見方・考え方を意識し、見通しを持った単元計画や評価計画を立てる。 ② 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実する中で、子供の発言や反応に対応して授業を実践するとともに、適切な評価を行う。 ③ 自ら課題意識を持ち、進んで授業を参観したり、公開したりすることで、学んだことを授業改善に活かす。 ①②③ カリキュラム・マネジメントの推進を図る。	B3 ①②③ 子供の実態や地域の特色を生かした授業を実践するとともに適切な評価・支援を行う。 ①②③ 自身の専門性を磨くとともに、校内研修の充実を図り、若手教員等に適切な指導・助言を行い、学校の授業力向上を牽引する。 ①②③ 組織のリーダーとして、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。	B4 ①②③ 子供の実態や地域の特色を生かした模範となる授業を実践するとともに適切な評価・支援を行う。 ①②③ 若手教員や中堅教員の授業力向上や学校教育目標達成に貢献する。 ①②③ 全教職員によるカリキュラム・マネジメントを推進できるように組織の体制を活性化させる。
	<b>C 子供と関わる力</b> ① 児童生徒理解 ② 生徒指導	C0 ・ 子供の心身の発達について理解する。 ・ 生徒指導や教育相談の意義、重要性等について理解する。 ・ 生徒指導や教育相談の進め方について理解する。 ・ キャリア教育の理論及び方法について理解する。	C1 ① 子供の内面を共感的に理解し、先輩教員等の助言を得ながら、一人一人の教育的ニーズに応じた支援・指導を行う。 ② 子供は集団との関わりの中でより成長することを理解し、先輩教員等の助言を得ながら規律と温かさがある望ましい集団づくりを行う。	C2 ① 子供を取り巻く環境を的確に把握した上で子供理解を深め、他の教職員や関係機関等と連携を図りながら、自己実現(自分らしさ)につながっていくよう適切な支援・指導を行う。 ② 子供同士が高め合おうとする集団へ成長することができるように、他の教職員と連携を図りながら、適切な支援・指導を行う。	C3 ①② 個や集団に対する支援・指導について、組織においてリーダーシップを発揮する。	C4 ①② 教職員相互で生徒指導に関する情報の共有化・指導の一体化が図られるように、組織の連携を強化する。
	<b>D 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応</b>	D0 ・ 特別な配慮や支援を必要とする子供の特性や支援方法について理解する。	D1 ・ 障害の特性についての理解を深め、教育的ニーズを把握するとともに、合理的配慮について考える。 ・ 専門性の高い教員の助言を得ながら、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、支援・指導を行う。 ・ 不登校児童生徒、外国人児童生徒等への支援について理解する。	D2 ・ 校内組織や関係機関等との連携を推進し、より効果的な支援・指導を行う。	D3 ・ 特別な配慮を必要とする子供に対する支援・指導についての専門性を高め、校内組織においてリーダーシップを発揮する。	D4 ・ 関係機関等と連携して、支援体制の構築に参画する。また、関係教職員に対し、適切な指導・助言を行う。
	<b>E ICTや情報・教育データの活用</b>	E0 ・ ICTを用いた指導や校務について理解する。 ・ 情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法について理解する。	E1 ・ 教材研究・指導の準備・評価・校務等にICTを効果的に活用する。 ・ 各教科等の指導において、単元の中で計画的にICTを活用して指導する。 ・ 子供の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて指導を行う。 ・ 一人一人の力を最大限に引き出すきめ細やかな支援を行うために、様々な教育データを蓄積・分析・活用する。	E2 ・ 様々な教育活動での危険・危機について把握し、課題に応じて指導するとともに環境を整備する。	E3 ・ 様々な教育活動での危険・危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。	E4 ・ 様々な教育活動での危険・危機を予測し、未然防止や抜本的改善、再発防止を組織的に推進する。
	<b>F よりよい教育を進め、高める力</b> ① 経営能力 ② 危機管理(情報管理を含む) ③ 組織力 ④ 家庭・地域等との連携・協働	F0 ・ 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。 ・ 危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解する。 ・ 教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解する。 ・ 多様な人材と連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。 ・ 連携・協働による開かれた学校づくりの意義を理解する。	F1 ① 学級担任の役割と職務内容について理解し、学級経営方針を策定し、実践する。 ② 危機管理の重要性を理解し、安全指導・安全管理をする。 ③ 組織の一員として、与えられた役割について報告・連絡・相談を行うとともに、諸課題について、組織として迅速に対応する。 ④ 家庭、地域、関係機関等と積極的に関わり、連携・協働した教育活動を行う。	F2 ① 学校教育目標と教育計画を踏まえて、学年経営、学級経営及び教科等の経営方針を策定し、実践する。 ② 様々な教育活動での危険・危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。 ③ 求められている役割を理解して積極的に対応する。	F3 ① 学校教育目標の実現に向けて指導の重点を定め、教育活動の活性化を図る。 ② 様々な教育活動での危険・危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。 ③ 組織のリーダーとして、互いのよさを認め合い、主体的に学校運営に参画する。 ④ リーダーシップを発揮し、家庭、地域、関係機関等とのネットワークを形成する。	F4 ① 経営方針を受け、学校運営について、ビジョンの構想やプランの構築に参画する。 ② 様々な教育活動での危険・危機を予測し、未然防止や抜本的改善、再発防止を組織的に推進する。 ③ 学校教育目標達成のために、組織の特性を見極め、組織力を高める指導・助言を行う。 ④ 家庭、地域、関係機関等とのネットワークを形成し、環境の整備や指導・助言等を行い、連携・協働ができる組織体制の構築を推進する。